

平成 3 1 年度

東大和市地域福祉審議会会議録

第 2 回 地域福祉部会

東 大 和 市 福 祉 部

○事務局（嶋田福祉推進課長） 皆様、改めましてこんばんは。

定刻7時なんですけれども、まだ若干前なんですけど、本日もご出席予定の委員の皆様お集りですので、若干早いですけれども、始めさせていただきますのでよろしいでしょうか。

それでは、定刻前でございますが、ただいまから平成31年度東大和市地域福祉審議会第2回地域福祉部会を開催させていただきます。

本来であれば、地域福祉部会長が部会の進行を行うところでございますけれども、地域福祉部会長を務めておられましたA委員から、11月30日付で委員退任の申し出がありまして、現在地域福祉部会長が空席という状態となっております。後ほど、この部会長の選出を行うわけでございますが、部会長選任されるまでの間、進行のほうは、私、福祉推進課、嶋田が務めさせていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

議事に入ります前に、関連事項等ございますので、ご連絡をさせていただきます。

まず、これ、毎度のことでございますけれども、資料作成のために会議を録音させていただきますので、ご了承いただきますとともに、皆様、議事の中でご発言をいただく際には、ご自身のお名前をおっしゃっていただいてからのご発言ということで、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

次に、本日の部会の資料についてご説明申し上げます。

本日の部会の資料といたしまして、事前に配布をさせていただきました資料1及び資料2、それと「第五次東大和市地域福祉計画」、オレンジ色の表紙のこの冊子と、「第五次東大和市地域福祉計画中間見直し報告書」、こちらをお持ちいただきますようにと開催通知のほうへ記載させていただいたところでございますが、お手元がない方につきましては、ご報告いただければ、事務局のほうでお渡しできますので、ちょっとご確認の上、ない方については挙手のほうお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

○B委員 貸してください。

○事務局（嶋田福祉推進課長） ありがとうございます。

続きまして、本日の委員の出欠につきまして、ご説明申し上げます。

審査会の会長でございますC委員から、本日の部会欠席とのご連絡をいただいているところでございます。

それでは、ここからは、お手元にご配付しております次第に沿いまして、議事のほうへ入らせていただきます。

まず1番ですね。委嘱状の交付でございます。

先ほども申し上げましたとおり、11月30日付で選出区分、福祉等関係者としまして、東大和市民生委員・児童委員協議会からご推薦をいただいておりますA委員から退任の届けが提出されました。このことに伴いまして、同じく東大和市民生委員・児童委員協議会から、新たにD委員をご推薦いただいたところでございます。

大変僭越ではございますが、私のほうから、この場をお借りしまして、D委員のほうへ

委嘱状の交付を行わせていただきますので、よろしくお願いいたします。

D殿。

東大和市地域福祉審議会委員を委嘱します。

令和元年12月1日、東大和市長、尾崎保夫、代読でございます。

どうぞよろしくお願いいたします。

○D委員 よろしくよろしくお願いいたします。

○事務局（嶋田福祉推進課長） それでは、早速ですが、D委員から一言ご挨拶を頂戴できればと思います。

○D委員 皆さん、こんばんは。

12月1日付で、東大和市地域福祉審議会の委員の委嘱をいただきました。

私の所属は、民生委員・児童委員協議会の地区会長をさせていただいておりますDと申します。今後ともよろしくお願いいたします。

右も左もわかりませんので、ご指導のほどよろしくお願いいたします。

それでは、失礼いたします。

○事務局（嶋田福祉推進課長） ありがとうございます。

次に、次第の2、地域福祉部会長の選任でございます。

先ほど申しあげましたとおり、現在、地域福祉部会長が空席となっておりますが、どなたか立候補でなっただけの方、もしくはご推薦等ございましたら、お願いをしたいと思うのですが、いかがでしょうか。

よろしいですかね。

○B委員 じゃ、すみません、どなたもいらっしゃらなければ、やらせていただきます。

○事務局（嶋田福祉推進課長） よろしいですか。

今、B委員のほうから、どなたもいらっしゃらなければということで挙手をいただいたところでございますが、B委員のほうに部会長にご就任いただくということで、皆様よろしいでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

○事務局（嶋田福祉推進課長） ありがとうございます。

それでしたら、地域福祉部会長ですね、B委員のほうにお願いをしたいと思います。

じゃ、B委員、ちょっと、一応こちらが部会長の席になっておりますので、お移りいただきます。

早速ですが、部会長就任のご挨拶ということで、B委員、一言お願いできればと思います。

○B部会長 ここ数年、地域福祉審議会、また地域福祉部会の委員をさせていただいております。前任のAさんにはかないませんが、微力ながら頑張ります。よろしくお願いいたします。

○事務局（嶋田福祉推進課長） それでは、ここで部会長決まったんですが、最後に傍聴の関係ですね、私のほうから進めさせていただきます。

この部会も、地域福祉審議会全体会と同じように原則公開となっております。したがって、第1回の全体会でも皆様にご説明させていただきましたとおり、情報公開条例30条第1項及び附属機関等の会議の公開に関する規則第4条に基づきまして、会議を非公開とする場合を除きまして原則公開、傍聴を認めているものでございます。

なお、本日は1名の傍聴希望者が現在いるところでございますが、入場させていただきたいと思いますが、皆様よろしいでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

○事務局（嶋田福祉推進課長） それでは、傍聴の方に入場させていただきますので、よろしくをお願いします。

それでは、ここからは、新たに地域福祉部会長に選任されましたB部会長のほうで、部会の進行をお願いできればと思います。どうぞよろしく願いいたします。

○B部会長 では、引き続き、議事のほうに入らせていただきまして、進行を進めてまいりたいと思います。

議題の3ですね、議事ということで、（1）地域福祉計画策定のためのアンケート調査についてが挙げられております。

事務局から詳細の説明をお願いいたします。

○事務局（武村） それでは、事務局からご説明させていただきます。

10月の地域福祉部会でご報告をさせていただきましたが、市では、第六次地域福祉計画の策定に関する事前のアンケート調査を、市民の方向けに実施をしたところでございます。

ここで、集計結果につきましてまとりましたので、委託事業者、株式会社ぎょうせいからご報告をさせていただきます。

既に事前資料として、資料1として「地域福祉計画アンケート集計表」を、部会員の皆様には配付させていただいたところでございますが、実は、こちらは簡略版でございまして、ここで、委託事業者から本日付でアンケート結果を詳細にした正式の「東大和市地域福祉計画に関するアンケート報告書（案）」が、本日までに作成できたということから、ここで、こちらを当日の追加資料、資料3として皆様に配付させていただき、この資料3をもとに委託事業者、株式会社ぎょうせいからご報告をさせていただければと思います。

それでは、ただいまから配付させていただきます。

それでは、配付のほう終わりましたので、委託事業者、株式会社ぎょうせいから説明のほう、よろしく願いいたします。

○ぎょうせい（目時） 株式会社ぎょうせいの目時と申します。

アンケートの結果を今回初めてご報告させていただきますが、この後もまたご審議いた

だく中で、いろいろ使っていただけのご回答の内容だと思しますので、今日は第1回目の報告ということでご案内させていただきたいと思います。

資料3のほうをお願いしたいと思います。

こちらは、資料1の集計表で見ていただいたところでございますが、回答いただいた方の回答結果をグラフ化等しておまとめをしているところでございます。

最初には、調査概要といたしまして、今回の調査の配付数や回収数、回答率などを入れさせていただいているところでございます。

1ページ目の真ん中あたりにあります表が、配付数3,000、回収数が1,091件ということで、有効回答35.7%となっておりますが、その方たちのご回答をおまとめさせていただいたものとなっております。

では、早速ではございますが、調査結果のほうを少しずつご案内させていただきたいと思います。

2番につきましては、回答者の状況ということで、属性等を入れさせていただいております。中身を見ていただきますと、全体というご回答と、その下に年代区分のご回答があります。2ページ以降、そのような形で集計をかけさせていただいております。全体が資料1にありましたように、1,091人の方の回答の結果となっております。その中で、年代を伺わせていただいております、その年代ごとに集計をしたものが、そのグラフの下にある回答の結果、割合になっているところがございます。

年齢をご記入いただかなかった方が数件いらっしゃったところがございますので、その方の回答は、全体には含めさせていただいておりますが、年齢区分はわかりませんので、この年齢区分を足し上げましても、全体には合致しないような状況でございますが、ご回答があった年齢に合わせて、ご回答を集計させていただいたものとなっております。

性別や年代、そして、今住んでいる地区などの属性を伺わせていただいております。

3ページ目のほうでは、地区とあわせまして、職業の状況なども入れさせていただいているところがございます。

3ページ目を見ていただきますと、やはり20代、30代、40代、50代ということで就業率が高くなっているというようなところも、年代別で見ていただくとおわかりいただけるのではないかと思います。

このような属性が、かなり回答の結果にも影響してきているところがございますので、年齢で見たり、お仕事の状況で見たりしながら、もう少し報告書を深めていくというようなところが、3月までの作業で出てくるところになってくるかと思います。

あと、4ページ目のほうでは、今住んでいらっしゃるところにどれくらい住んでいらっしゃるか、また家族構成などについても伺わせていただいております。

世帯の状況につきましては、2世代の世帯、子どもと、また親との同居というようなところが46.6%と、最も多くなってきているところがございますが、20代、30代、

40代のところでは、特に2世代というようところが70%ぐらいとなっております。やはり世帯の形、核家族化というようところが、この計画をつくる中ではポイントになってくるところではないかと思えます。

また、70歳以上を見させていただきますと、ひとり暮らしの方が21.8%と、ほかの年代よりも多くなってきておりますので、やはりこれも、核家族化というようところの傾向を受けているというようところが、おわかりいただけるところではないかと思えます。

そのようところを見させていただきながら、回答の結果を少しずつご案内させていただきたいと思えます。

6ページ目以降でございますが、地域での暮らしや地域との関わりというよう項目を挙げさせていただきました。この中では、暮らしやすさであったり、地域での心配事などについても伺わせていただいているところがございます。

6ページ目の上段が、住んでいる地区は暮らしやすいかどうかということをお伺いさせていただきました。30代、40代の方が暮らしやすいというご回答が、ほかの年代よりも高くなっていたところがございます。30代、40代の方の暮らしやすいという回答は、40%を超えておりました。これは、なかなか珍しいといっちはあれですけども、すごいなとも感じたところになってきております。

ただ、その中で、住んでいる地域に日ごろから心配なこと、気になることが、どのようなことがあるかということも伺いさせていただきました。この問9の6ページ、7ページのあたりのところは、これから地域のさまざまな課題を考えていただく中では、非常に市民の皆様のご回答になってくるところではないかと思えます。地域の防犯・防災などの安全面が心配だというところ、もちろん、特にない、心配事は特にないんだという方も26.4%いらっしゃったところがございますが、それ以外に、高齢者が安心して暮らせる環境、あと自然環境などの生活環境というようご意見もいただいているところがございます。年代によっても少し変わってくところがありますし、高齢者が安心して暮らせる環境というようところでは、高齢者の方たちのご意見が多くなっていたり、子どもが安心して暮らせる環境というようところでは、お子さんを持つ世代の方の回答が多くなっていると、そんなところも見させていただきながら、これからこの課題をどういうふうに取り組んでいこうかというふうなところの参考にしていただければよろしいのではないかと思えます。

また、その心配事、気になることの具体的な内容についても、市民の方にご記述いただいたところございまして、そちらは、8ページ目のほうにおまとめをさせていただいております。3分の1ぐらいの回答者の方たちが、いろいろな困り事などをご記入いただいたところがございます。前のほうの選択肢で選んでいただくところと連動してくところもありますけれども、その具体的な中身もちょっと書き出させていただいておりますので、

こちらでもまた今後見ていただけると、ありがたいかなと思っているところがございます。

では、続きまして、その後、地域でのさまざまな課題に支え合いなどが必要かというように伺わせていただいたり、その中で、地域での活動ということでは、地域付き合いや自治会への参加なども伺わせていただいているところがございます。

ちょっと飛ばさせていただきます、13ページ目のほうを見ていただきたいと思います。

こちらでは、自治会への加入状況をお聞かせいただいたところになっています。一番左が入っているというご回答になりますが、見ていただきますとおり、年齢が上がると加入率が上がってきているというふうな状況も、すぐにわかっていただけないところではないかと思えます。

自治会に参加していない理由なども伺わせていただいておりますし、そちらにつきましては、参加する機会がないというふうなご意見や、仕事や家事・育児など時間がないというふうなご回答もいただいているところがございます。

また、地域での活動での問題点というようにも伺わせていただきました。こちらは、15ページ目のほうにおまとめをさせていただいているところがございます。

全体では、中心となる人が高齢化してきているというふうなご回答が、37.7%いただいているところがございます。また、活動する人の確保が難しい、活動に関する市民の関心が低いというふうなご回答も、30%前後いただいているところがございます。いろいろな問題があると感じていただいているというふうな市民の方も、多くいただいているところではないかと思えます。60代、70代の方につきましては、自治会活動、自治会への加入状況も高い状況ではございますが、その中でのご回答では、中心となる人が高齢化しているというふうなご意見であったり、やはり40%程度いただいているところになっております。

このような地域の状況なども、少しずつわかってきたところがございます、このような結果も、地域活動を展開していく中では、参考にしていただけないところではないかと思えます。

あわせて、社会福祉協議会などの状況についても伺わせていただいているところがございます。

少し飛ばさせていただきますが、そちらにつきましては、23ページ目以降で、社会福祉協議会や地域にかかわっていただいている団体の活動などについても伺わせていただいているところがございます。

1つ目の23ページでございますが、こちらは、社会福祉協議会をご存じかどうかということをお伺いいただいているところがございます。50代以上になりますと、3分の2ぐらいの方たち以上が認知度が高くなってきているというところがございますが、年齢が若い層につきましては、知らなかったというふうなご回答もいただいているところがございます。

また、社会福祉協議会でやっていただいている事業やサービスのことについても伺わせていただいたところで、こちらは、24ページ、25ページ目のほうでまとめをさせていただいております。福祉祭など、あと赤い羽根の募金などについては認知度が高くなってきているような状況も見られるところになってきております。また、こちらにつきましても、社会福祉協議会様にもご提供して、見ていただくようなところになってくるかと思われれます。

それ以外の事業などについても、いろいろ伺わせていただいているところがございますし、今後の社会福祉協議会での事業サービスの充実などについても伺わせていただいているところになっております。

また、それ以外ですと、地域活動やボランティア活動などについての参加状況なども伺わせていただきました。そちらは、30ページ目以降になってまいります。

30ページ目のほうでは、民生・児童委員さんの認知度についても伺わせていただいているところになっております。

年齢にもよるところでございますが、知らないというようなご回答もいただいております。年齢が上がってきますと、やはりかかわっていただいている方も多くなっており、認知度が上がってきているというような状況も見られるところがございます。

あと、市民の皆様への地域活動への参加状況について、31ページ目以降でも伺わせていただきました。

地域福祉は自助の部分もありますが、互助や共助というようなところで、やはり地域の皆様にいろいろかかわっていただくところが多くなってみえるところがございますので、このような設問を設定していただき、今後の活動の展開にも役立てるものになってくるころではないかと思われれます。時間があるときに、できれば参加したい、また参加するんだというようなご回答や、なるべく参加していきたいというようなご回答が多くなってきているところではございます。ただ、年齢によって、お仕事などもあるかとは思いますが、そのようなご回答も違ってきているというような状況も、今回のアンケートの中で見られたところがございます。

また、今後、地域のボランティア活動への参加について、どうお考えですかということも、32ページ目のほうに伺わせていただきました。

全体では、参加したい気持ちがあるが、忙しくて参加できないという方が44.5%程度、あと、関心がないというような方が17.5%と、こちらは開きが大きくございます。気持ちはあるんだけど、参加しにくいというようなところで、若い層の方たちも年代の層の方たちでも、多くご回答はいただいているところで、先ほどの31ページ目のご回答と連動しているというか、そのようなところも見られるところではないかと思っております。どのように参加して、どんなことをしていけば参加していただきやすくなるかというよう

なところも、次期計画の中でもポイントになってくるところではないかと思っておりますので、このような結果も少しよく見ながら、ご検討材料にさせていただければありがたいかなと思っております。

あと、35ページ目のほうでは、相談のこと、また、情報提供などのことについても、伺わせていただいているところがございます。

この相談支援の部分でございますとか、福祉情報の提供というようなところは、いろいろな福祉の計画でもポイントになってくるところがございます。そちらを総括する上でも、地域福祉計画の中でも、この部分を着眼していく必要があるのではないかとということで、今回のアンケートの中で伺わせていただいたところになっております。

福祉情報の中で充実すべきものというようなところも、41ページ目のほうで伺わせていただきました。

広報やパンフレット、ホームページなど、市の広報を充実していったほうがいいんじゃないかというふうなご意見も、市民全般にいただいているところがございます。また、社会福祉協議会さんの広報紙も活用できるのではないかとということ、認知度の高い年齢層の方のところでご回答いただいているところがございます。福祉のサービスが結構細々変わってきている昨今でございますので、このあたりのきめ細かい提供というようなところも、時期計画の中でもポイントになってくるところではないかと思われま。

あと、続きまして、42ページ目以降でございますが、6番といたしまして、成年後見制度について設問を複数問設定していただいて、いろいろ聞かせていただいたところになっております。

次期計画の中で成年後見制度の利用についても、内容として補充していくようなところをご検討いただいているところがございます。今期は、このことについての設問を入れさせていただいているところになります。成年後見制度の認知状況、50代、60代、70代以上になりますと、認知度も50%前後になってきていらっしゃるというようなところも、今回の中ではわかってきたところがございます。あと、利用する予定でございますとか利用する理由などについても、伺わせていただいているところになります。

あと、今後、どなたかに成年後見人になっていただきたいという方のほうも、踏み込んでお聞かせいただいたところも、44ページ目あたりに触れさせていただいているところがございます。このようなところのご回答もいろいろ参考にさせていただきながら、次期計画の中での施策の検討材料にさせていただければと思っております。

では、7番のほうに移らせていただきたいと思っております。

こちらにつきましては、今後の市の福祉のあり方や、充実してほしいことなどについても伺わせていただいているところがございますし、福祉サービスを利用されているかどうかというようなところも、伺わせていただいているところになっております。今後を図っていく上では、参考になる設問になっていらっしゃるところではないかと思っております。

そのような中では、50ページ目のほうを見ていただきたいと思います。

今後の地域福祉の推進のために、市と地域、福祉行政と地域の関係はどのようにあるべきかというようなことも伺わせていただきました。行政と地域が協力し合い、共に取り組むべきだというようなご回答が半数を超えていただいているところで、こちらは、本当に年齢にかかわらず、ご回答が一番多くなってきております項目になっております。行政だけでは手が届かない課題には、地域が協力していくべきだというようなご回答も、12.5%いただいているところでございます。そのような市民の皆様のお考えというようなところを受けて、どういう展開の方向が考えられるのかというようなところも、次期計画のポイントになられるところではないかと思っております。

また、市民の皆さんが、これから東大和市はどのようになってほしいかということも伺わせていただきました。そちらは、51ページ目のほうに入れさせていただいております。

高齢者が安心して住める市、あと、防災・防犯体制が充実して、安心して暮らせる市、あと、子どもが安心して暮らせる市というようなご回答が、上位3位に入っているところでございます。先ほどの困り事の設問と似ている部分も見られるところではないかと思っておりますので、このようなところは、ポイントとして挙げていただけたところも多く出てきているところではないかと思っております。また、子どもが安心して暮らせる市というようなところにつきましては、30代にも非常に多くなってきているところでございますし、高齢者が安心して住める市というようなところでは、70歳以上のご回答が非常に高くなってきている状況にありますので、そのようなところも見ていただきながら、考えていくところになってくるところではないかと思っております。

地域福祉の推進に向けてでございますが、52ページ目のほうでも、今後どのような取組が重要だと思うかということも伺わせていただきました。

こちらについては、市民の健康を守る取組であったり、在宅の暮らしを支える生活支援の推進というようなところ、また、移動しやすいバリアフリーのまちづくりと、いろいろな分野のご意見をいただいているところでございます。今期は、地域福祉計画にあわせ、高齢者の計画や障害者の計画とも連動しながら実施をしていくところでございますし、高齢者の計画や障害者のほうの計画の中でも、今、アンケートの集計が進んできているところでございますので、また、これに関するところを、部会の皆様にもご報告させていただきながら、ご検討いただけるとありがたいかなと思っているところでございます。

あと、防犯・防災のご意見というのが、かなりいろいろなところで出てきたところでございますが、54ページ目につきましては、防災対策について、地域の活動で重要だと思うことということも伺わせていただきました。

避難場所・施設の環境の整備というようなことが61.2%、非常に高くなってきているところでございます。また、それと僅差で、隣近所での声のかけ合いというようなところも、58.3%と多くなってきております。この2つというようなところでは、先ほど

も困っていることや地域でやれることというようなご回答とも似てきているところでございまして、平素、日常の中のこのような取組が、地域福祉の推進だったり、防災対策にもつながっていくというようなところがうかがえるところではないかと思えます。

55ページ目のほうでは、市民の皆様にもいろいろなご意見もちょうだいしたところでございますので、このあたりも、課題とも連動してくるところではないかと思っておりますので、また部内で共有していただきながら、この部分も課題の1つということで、協議の材料にしていだけるようになるかと思われま。

すごく急ぎ足で大変わかりにくいところもあったかと思えますが、今、年齢で見えていただいたりする中でのご報告ということで、また細かいところも補充させていただきながら、計画を検討していただく中で、ご案内させていただける場面が出てくるかと思えます。

まず、1回目のご報告ということで、きょうは粗い報告のほうをさせていただいているところでございますので、何かお気づきの点でございますとかご意見等賜れば、ありがたいかと思えます。

説明は以上でございますので、よろしくお願ひいたします。

○事務局（武村） ありがとうございます。

議題1につきましては以上でございます。

○B部会長 ありがとうございます。

では、今ご説明いただきましたアンケート調査について、ご質問、ご意見等ございましたらお願ひいたします。

今、初見になるので、なかなかご意見、ご質問といっても難しいかと思えますけれども、気になった点とか疑問に思った点とかございましたら、ぜひお声に上げていただければと思えますが、いかがでしょうか。

はい、E委員、お願ひします。

○E委員 ぎょうせいさんに聞きたいんですけども、一般的に、このような調査をするときの全体の有効回答率というのは、ほかの市もやられて、どのぐらいなんですかね。これちょっと、我々から見ると、もっとあってもいいんじゃないかなと。

○ぎょうせい（目時） 地域福祉のアンケートは、対象とする年齢がやっぱり20代からということで広がっているところでございまして、3割台というのは、有効回答率とすると平均的というか、多分、委員の皆さんからすると、何かちょっと低いのかなというところ……

○E委員 そうね。半分ぐらいあってもいいんじゃないかなと思うんですけどもね。

○ぎょうせい（目時） はい。と思うんですが、福祉のいろいろなアンケートからすると、やや低目になっている状況はあるかと思えます。総合計画などのアンケートですと、やはり3割ぐらいで、年齢層が広がっているところもありますので。

○E委員 わかりました。

○B部会長 1ページ目のところですね、有効回答率が35.7%となっていますけれども、こういった調査においては標準的ということですかね、標準より若干少な目。

○ぎょうせい（目時） 福祉のアンケートの中では

○F委員 確認してよろしいですか。

○B部会長 はい、お願いします。

○F委員 Fです。

この中で、回答しなかった件数も、年齢層というのは出ているのですか。例えば、どの年齢が回答が……

○ぎょうせい（目時） 調査の……

○F委員 調査の中で。

○ぎょうせい（目時） 調査の中ですらね。

一応年齢は、配付するときにご検討いただいて配付をしておりますので。

○F委員 どうしてそういう質問をしたかという、やっぱり関心度が、どの年齢が高くて、どの年齢が低いのかをちょっと知りたかったんですけれども。

○事務局（嶋田福祉推進課長） 私のほうから、よろしいですか。

今、F委員のご質問は、恐らく、その福祉の課題に対して、例えば、20代だと何%が回答していて、70代だと何%という、多分そういうご趣旨だと思います。

一応、うちのほうで今回、一応成人、20歳以上の方3,000人という形で拾っています。ここは、無作為抽出という形で拾うわけなんです、うちの市の中の、例えば20歳代の人口、その人口割合で、年代別の人口割合で数を決めていますので、例えば、2ページをお開きいただきますと、一番最初の問1ですらね。全体で1091という、これは全体の回答数ですが、20歳代で38人が回答している、94人が回答している、そういう見立てになるんですけれども、この20歳代の方が、例えば何人出したかというのは、一応人口の分布に応じて割合として出していますので、みんな平均に回答が得られるように。ですから、その数字があれば、ここと割り返せば、大体何%というのがわかるんですが、今ちょっと手元に、その集計表がないということなので。

ただ、この数字だけを拾うと、例えば、若い人がちょっと少ないのかなんていう傾向が、とれるかなというふうにはとれますね。

○F委員 この傾向の、全体的な中と同じということですよ。

○事務局（嶋田福祉推進課長） そうですね。恐らく、そんなに、いわゆる、人口ピラミッド的なところの割合も、そんなに東大和市は変わらないとするならば、どっちかというと、昔は、いわゆるピラミッドじゃなくて、宙ぶらりん状態みたいな状況じゃないですか。その中で、回答数がこれだけというふうになると、やっぱり高齢の方のほう福祉に関する関心が高い、回答率も高いというふうな、すみません、ちょっと根拠じゃないんですが、大体見てとれるかなというところはあるかなと思います。

すみません、私のほうからは以上です。

○F委員 あと、東大和市の地域性といいますか、4キロ四方というのかな、そんなに大きい市ではないと思うんですけども、そういう中で、大きな団地がある地域とか、いろいろ分かれているじゃないですか。そういう中の地域性というのは、回答とかに、傾向というか、出ているものなのですかね。

○事務局（嶋田福祉推進課長） そうですね。私、嶋田ですけれども、今、ちょうど開いている2ページ、3ページのところで、恐らく今おっしゃられているのは問の3の部分かなというふうに思うんですね。ここが、大体地区別の年代別というような形になっていまして、恐らくこの真ん中の多いところというのは、桜が丘ですかね。

○ぎょうせい（目時） そうです、はい。

○事務局（嶋田福祉推進課長） ですね。やはり桜が丘地区、大規模マンション等が多くて、人口割合も高いということで、多分その回答率が多いというのは、そういったところが影響されているのかなというふうな気がしますね。

○B部会長 ありがとうございます。

ほかに何かご質問。

はい、お願いします。

○G委員 Gですが、ちょっとアットランダムになりますが、さっきの年齢の件で、多分アンケート自体、おおむね各年齢層の比率に合わせて出ているんだろうと思うんですけども、60歳以上の人からの回答が約6割になっている。だから、高齢者のほうが関心を持って回答してくるということがあるにせよ、ちょっと細かく見なきゃいけないんですが、回答がやや高齢者の意見に引きずられる、ちょっとたとえばあれですが、選挙は割と高齢者がよく行って、政策や何かが高齢者の意見に近づいていく、若年層の意見が政治政策に反映されないというふうなことがたまに言われていますけれども、ちょっとその辺が、今後分析していくときに、やや高齢者の意見に。

高齢者の意見を尊重するというのは悪いことじゃないと思うんですが、若年層の意見がやや薄くなっているんじゃないかということを加味して、分析なり、よく読んでみたいと思うんですが。

ですから、単に高齢者のほうが関心を持ってどんどん回答してくれたということでもいいですね。念のため、お聞きします。

○ぎょうせい（目時） ちょっと、それもあるので、年齢ごとのグラフを見ていただくと、結構違うところがおありなのかなとは思いますが。

○G委員 それと、例えば、あなたの性別を伺いますというのは、20歳代38人ということで数がわかるんですけども、一番最後の問48、防犯対策云々で、例えば、隣近所の声かけ、一番上は58.3、これは、100%に対して、声かけが重要だと回答したのは58.3%あるということですね。こっちの単純集計表のほうだと、隣近所への声かけ

が636件あったということになると、636件という、このグラフのほうからすると、グラフのほうは一番上が58.3なんです、その2行目、39.5から下、全部これはパーセンテージですよ。

○ぎょうせい（目時） そうです、はい。20歳代から、年齢ごとの割合になります。

○G委員 636件について、20歳代で39.5%。

○ぎょうせい（目時） 636件の方は、全年齢を足した、この選択肢を選んだ方になります。20代の方だけ見てみると、20代の方のうち、39.5%答えられたということになります。すみません、年齢ごとの母数が出ていないので。

○G委員 例えば、20代の回答者38人だから、この38人全員がここに回答していれば。

○ぎょうせい（目時） そうです、100%になる。

○G委員 その38人のうち、約4割の人がこれを上げたという。

○ぎょうせい（目時） はい、答えていただいているということです。

○G委員 20代だと、要は、十五、六人。

○ぎょうせい（目時） はい。

○G委員 ちょっと、数字を、データから見ながら、どれくらいあったかということを考えていかなきゃいけないと。

○B部会長 G委員、よろしいですか。

○G委員 はい。

○B部会長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。

本当に、きょう初見になりますので、なかなか細かいご意見というのは難しいかと思えますけれども、とりあえずは、一旦これで確認させていただいたというところで、次の議題に進ませていただいてよろしいでしょうか。

では、すみません、(2)ですね。第五次東大和市地域福祉計画の平成30年度実施状況調査報告について、ご説明願います。

○事務局（武村） それでは、事務局から説明させていただきます。

それでは、事前に配付しております資料2、「平成30年度実施状況調査報告書」をお手元にご用意ください。また、今回お持ちいただいている地域福祉計画冊子のご用意もお願いいたします。

まず、ここで報告いたしますのは、昨年度に引き続きまして、第五次地域福祉計画の平成30年度の実施状況につきましてのご報告でございます。

まず、計画の概略と各課の取組を簡単にご説明させていただきます。

計画の冊子の25ページ目をお開きください。

こちら、確認でございますが、こちらには、第五次地域福祉計画の計画体系図が掲載さ

れております。この中の1から4まで、施策の基本方針が掲載されております。実施状況でご審議いただくのは、こちらの左側でございます、番号1から4の項目となります。

27ページをお開きください。

こちらのページでは、施策の基本方針における取組項目を具体的に掲げており、これらの取組項目につきまして、関連する各課がそれぞれの主な取組状況を検証し、平成30年度の実施状況につきまして評価を行い、評価の理由を示したものが、事前にお配りさせていただいております資料の「平成30年度実施状況調査報告書」でございます。

まず、27ページから29ページまでが、1、形成基盤の整備に関する取組でございます。

次に、30ページから31ページまでが、2、自主活動の支援に関する取組でございます。

次に、32ページから35ページまでが、3、福祉の環境づくりの推進に関する取組でございます。

最後に、36ページから37ページが、4、福祉のまちづくりの推進に関する取組でございます。

こちらまでが、今回ご審議いただく内容でございます。

続きまして、「平成30年度実施状況調査報告書」の1ページ目をお開きいただければと思います。

こちら、1ページ目が、平成30年度の事業評価集計表でございます。

評価の数字のご説明でございますが、こちら、地域福祉計画は、平成27年度から平成32年度までの計画を期間としていることから、平成32年度を目標の達成期間としていただいております。評価の指標である評価結果につきましては、評価3は、実施状況につきまして順調としております。評価2は、平成30年度実施状況について、概ね順調としております。評価1は、平成30年度実施状況について、着手としております。

それでは、具体的に皆様に報告いたします。

集計表1ページ目となりますが、こちらの合計欄をご覧くださいと思います。

事業数に対しまして評価数が多くなっておりますのは、こちら、昨年度もご説明しましたとおり、1つの事業につきまして、複数の課がそれぞれ関連する事業を行っていることによるものでございます。

評価の内訳でございますが、全体では、評価3が4事業、7%でございます。評価2が52事業、93%となっております。全ての項目で、評価2以上があることから、平成32年度の目標に向け、ほぼ全体としては順調に進んでいるとお示しすることができると思います。

なお、第五次福祉計画は、平成30年度末の段階で計画期間6年間のうちの約3分の2が過ぎたこととなります。今年度より第六次地域福祉計画の準備が始まっているところで

ございますが、第六次の地域福祉計画では、こちら、今までの各年度の事業実施報告の累計を踏まえた上で、新たに計画を作成しまして、充実した地域福祉計画を目指したいと考えてございます。

なお、昨年度もご説明したとおり、総合福祉センターにかかわる項目は、すでに事業が終了していることもございまして、今年度も評価の対象としてはおりませんので、よろしくお願いいたします。

第五次地域福祉計画の平成30年度の実施状況調査報告につきましては以上でございます。よろしくお願いいたします。

OB 部会長 では、今、30年度の実施状況調査報告についてご説明いただきました。

委員の皆様からご意見、ご質問等ございましたら、お願いいたします。

はい、お願いします。

OE 委員 この中の説明はしないんですか。

○事務局（武村） 中の説明は、実は、おおむねこちらの……

OE 委員 我々が読んできたのと……

○事務局（武村） そうです。全て、今回もこちらの形でさせていただいて、特に前回、評価3が3事業だったのが、今回4事業となっているところでございまして、おおむね各課の確認した内容のとおりのございましたので、こちらのほうで特に特記することはここではせずに、主にこの内容でやらせていただければということで、ご説明のほうさせていただきますと考えております。

OG 委員 よろしいですか、山本ですが。

OB 部会長 はい、お願いします。

OG 委員 自治会の運営に必要な支援を行います、2-(1)の①、それから、②で自治会の運営に必要な情報を提供し、運営を支援しますと、取組内容としては別になっているんですけども、30年度実施状況は、(1)から(7)まで全く同じなんですよ。違う項目だから、こういうことはちょっとあり得ないと思うんですね。担当課、市民生活課、なるべくたくさん書いて、自分の課が頑張っているということを説明したいということはあるかもしれませんが、取組状況で全く同じなら、別に項目を2つに分ける必要はないんじゃないかと。

だから、それなりの、両方とも全く、この7項目とも両方に合致する項目だから、それなりに合理的な理由があるんだというのであれば、それはそれでいいと思いますけれども。

それから、ちょっとアットランダムになりますが、福祉の環境づくりの推進で、①、②、③、④、⑤とあって、障害者や高齢者に対する云々と、市民参加できる講演会等、認知症対策とかあって、その評価の理由のところ、これは言っていていいか悪いということではなくて、第2層協議体の構成員となるという、ちょっと私は不勉強でよくわからなかったんですが、第2層協議体というのは、具体的にはどういう意味ですか。

○B部会長 今、幾つかご意見、ご質問ございましたが、お願いできますか。

○事務局（嶋田福祉推進課長） それでは、事務局のほうから順次お答えをさせていただきます。

申しわけございません。ご提供しました実施状況報告書につきましては、大変恐縮です、ページ数が振っていませんものですから、非常にちょっと見づらくて大変恐縮でございます。

今、G委員からのご指摘ですと、形成基盤の整備、2枚ぐらいおめくりいただきますと、左側の自主活動の支援といったところの部分の2の①、②のご質問でございます。

こちら、取組内容のところを読ませていただきますと、①については、「自治会の運営に必要な支援を行います。」という表記です。②につきましては、「自治会の運営に必要な情報を提供し、運営を支援していきます。」。ですから、もともとの計画の中での、いわゆる書きぶりと、違いが何なのかというところが、ちょっと明確化されていないのかなというところでの、この実施状況の書きぶりが、全く同じことを書いているというか、そういうことにつながってしまっているのかなと思いますので、このあたりは、翌年、次回の計画のときにもちょっと参考とさせていただきます、ここはこういうことをやりましたというところの切り分けですね。我々、計画を主管している福祉推進課としましても、ちょっとそこが、ここはこういうことを評価してください、ここはこういうことを評価してくださいということが、ちょっと明確になっていない部分があるかと思しますので、そのあたりは反省材料として、事業の主管課である、現在地域振興課になりますけれども、こことちょっと検討しながら、今ご指摘のあった書きぶりについては、苦し紛れではないなというふうに、ちょっと感じたところでございます。

そうしたところで、来年度以降、ちょっと記載のところは、主管課とも検討させていただければと思います。

それから、2点目の第2層協議体、すみません、私もそのところは……すみません、G委員、もう一個のやつは何枚目……

○G委員 福祉の環境づくりの推進で。

○事務局（嶋田福祉推進課長） もう一枚めくった後のところですかね。

○G委員 ①、②、③、④、⑤といきますね。⑤の真ん中辺、高齢介護課、市民参加できるところで、その評価の理由のところの……

○事務局（嶋田福祉推進課長） そうですね。下段に近いところですね。

○G委員 加えて、第2層協議体。

○事務局（嶋田福祉推進課長） 申しわけございません。ここ、ちょっと、私のほうでも、用語の意味というのをちょっと承知してなくて、大変恐縮でございます。

確かに、文言としては私も聞くんですが、具体的に説明しろとなりますと、ちょっとその意味が、私のほうで理解できていないもんですから、どなたか、部会長……

OB 部会長 じゃ、すみません。

今、東大和市の地域包括ケア推進会議というものが稼働しております、市内全体の地域を包括しながら、よりよい住みやすい環境づくり、高齢に限らず、福祉も、地域共생みたいなところも含めて議論されているんですけども、その中の地域福祉に特化した部会がございまして、そこで、その部会が、第1層協議体というふうな名称を持ちながら、部会として活動しています。

そこが、市内を、地域包括っておわかりになりますかね。地域包括支援センターが今、市内に3つございます。その東大和市を3つの包括が分割して担当しているんですけども、さらにそれを7つに分けて、その7つの中で、例えば狭山・清水とか、より近いところのグルーピングをして、そこで、より地域に密着した人たちで、地域の課題、問題について考えていこうというグループをつくっています。それが今、第2層協議体という名称で活動し始めているところなんですけど、そこに、恐らく高齢介護課として関与して、協力しているよということをおっしゃっているのかなというふうに思います。

それぞれの2層協議体で、今、たまたま、大和苑も狭山・清水に属しているんですけども、例えば、狭山・清水ですと、勉強会を何度かやりまして、その勉強会に参加してくださった中から、地域活動に参加してもいいよと言ってくださった方たちが、代表で10名から15名ぐらいで1つのグループをつくりまして、その人たちが地域に向けて、狭山・清水でこれからやるのは、狭山茶の茶どころで、木下お茶屋さんとか杉本園さんとか宮鍋さんとか、いろいろあります。なので、そういったお茶屋さんたちに協力してもらってお茶のイベントをやって、子どもからお年寄りまで、みんなで一緒にお茶についてイベントをやってみようというような企画をしたりですとか、そんなことをそれぞれの協議体で始めているんです。

あと、清原地区なんかだと包丁研ぎとか、そういった人たちを呼んで、安価で、ワンコインで包丁を研いでもらえるとか、そんなようなことをやったり、そういったグループをつくって協同で活動を始めた団体を、一応2層協議体というふうに呼んで、活動しています。ちょっとわかりにくいかもしれませんが。

OG 委員 3つある地域包括支援センターの、その下の7つか何かの。

OB 部会長 そうですね、はい。

OE 委員 第1層が市全域の、第2層が、その地域に密着したという部分、言い方。

OB 部会長 そうですね。その1層の中に、市の方とか、あと社協の、コーディネーターとして社協のスタッフも入りまして、あと、地域包括ケア推進会議の委員も参画して、1層、2層というような、地域により密着したところと、そこから上がってきた大きな課題を市に提言していくような1層というようなところと、2層に分かれて今、活動を始めていますよというところだと思います。

○事務局（嶋田福祉推進課長） すみません、代弁していただきまして、ありがとうございます

います。

OG委員 すみません、もう一つあるんですが。

OB部会長 お願いします。

OG委員 最後のほうの福祉推進課さんの担当、さっき、第2層協議体の次のページの、さらにその次のページ、⑧の市の相談窓口につながった複数の、⑨複数の困難を抱えた市民が福祉サービスにとかあるんですが、率直にお聞きして、⑧は、庁内連携会議設置に向け、あり方等を討議した、それから、その下の⑨は、福祉相談窓口の一元化に向け課内で検討し、一元化に向けた云々を討議した、その評価理由も、庁内連絡会議の設置に向けた調整ができた、それから福祉相談窓口の一元化についての庁内会議の。

まことに申し上げにくいんですが、この基準自体は、その前の年と全く同じなんですよ。ということは、率直にお聞きして、あり方を討議したのは前の年であって、前の年に討議したのを、この年も討議したことになっているのか、今度の30年度の評価として、また討議したことになっているのか、何かその辺がいま一つ、2年前に討議して、あり方を討議したとか、庁内会議で討議したことをもって、2年前も討議したことになるし、本年度も討議したことになるのであれば、ちょっと実施状況の説明としては、ややバランスを欠くんじゃないかなと。

ちょっと細かく知りませんのであれですが、率直にそういう印象を持ちました。

OB部会長 今ご指摘ございましたが、お願いします。

○事務局（嶋田福祉推進課長） 事務局からお答えをさせていただきます。

大変申しわけございません。G委員ご指摘のとおり、そういう意味で、ある意味わかりづらい違いですね、あったかと思えます。大変恐縮でございます。ご指摘は真摯に受けとめたいと思えます。

ここの相談の部分についてはやはり、一応担当課としては福祉推進課で、私どもの課でございませけれども、実際には、これ、ほかの全庁的な、福祉だけに限らず、ほかの部署も含めてなんですけれども、相談っていう一言で申し上げましても、やはりその裏に抱えている生活の困窮であったりとか、孤独であったりですとか、貧困であったりですとかって、いろんな要素が市役所のほうに相談窓口に来られます。こうした中で、国のほうでも、いわゆる今まで縦割り組織で、いろいろ部署部署で何らか、苦情処理であったり、相談を受けていたというのを、今までの縦割りの組織だけではなかなか網羅できない相談というのが非常に近年ふえているという状況を踏まえまして、国のほうからも、やはり断らない相談支援というようなところで、方針といいますか、そういった言葉を使って、できるだけそういうところを、言葉のちょっと語弊がありますけれども、こぼれないようにというか、できるだけ網をかけてすくっていきこうというようなところで意向も出ていまして、こうしたところも、今回の第六次地域福祉計画、前の議題に戻りますけれども、こちらの中で、何かしらの項目を設けて、きちっとそういう形で市民の方が困らないように、皆さん

が相談をきちっとできるようなところを、連携を何とか体制とれないかというところで、今検討しているところをございまして、この辺は、第六次地域福祉計画の中でもしっかり織り込んでいかなきゃいけないというふうな認識であります。

そうした中で、30年度の実施状況の書きぶりというのは、非常に抽象的な書きぶりにはなっているということは、先ほど申し上げました、非常に反省すべきところなんですけれども、今、福祉部内でも生活保護に関連するところでは、くらし・しごと応援センター「そえる」さんとか、こうしたところでも、本当に生活困窮だけに限らず、ひきこもりの問題であったりとか、そうしたところも踏まえて、できるだけ相談はまず受けようというふうなところでやっていますので、そうしたところを、庁内の連携は着実に、一歩ずつですけれども進んでいるという状況です。

ただ、成果としてこういうことをやっていますというのが、なかなか表現としてうまくできないものですから、ちょっとこういった表現に甘んじているというところをご理解ただいて、ただ、ここにも書いてありますように、庁内ではそういった議論は、部署部署、もしくは、例えば、私の職層でいいますと、課長同士の話であったりとか、担当者同士の調整であったりとかというのは、年度よりも前には進んでいるというところですが、この表現法としては、ちょっとこういうことになってしまっているのは申しわけございません。ちょっとそこところは反省させていただきます。

一応、こんな形でちょっとお答えさせていただきます。

OB部会長 ありがとうございます。

よろしいですか、G委員。

OG委員 はい。

OE委員 いいですか。

OB部会長 はい、お願いします。

OE委員 この計画取組内容と計画をつくるんですけども、五次はもうつくってあるから何とも言えないんですけども、もうちょっとわかりやすく、6年であれば、6年の計画のうち、どこまでこうやってやっていくかという部分になると思うね。ただ、相談活動なんか永遠にやっていかなきゃいけないんですね。そういうものはしょうがない。ただ、何件あって、どうなったかというのを書いてもらえれば、わかりやすいと思う。じゃなきゃ、例えば、住みよいまちづくりで、どういうふうに段階的に進めていくかという、何かそういう書き方のほうがいいんじゃないかなと思うんですね。

評価についても、もっと工夫ができないかなと、前からお願いしているんですけども、例えば、ページを振っていないからわかんないんですが、2ページの次、実施表の4ページ、例えば、地域の見守り・支援ネット構築になっていて、①が、行政、社会福祉協議会、民生・児童委員、こういうのは、年間で何回やったって書いてあるんで、こういうのが1つ評価の基準になると思うんですね。円滑にできて、これはいい話なんだけれども。

例えば、その下にもう一つ、福祉推進課の書いたやつで、その評価の理由に、社会福祉協議会への活動が支援できたためというか、例えば、市で福祉的何かをつくるし、社協つくつとるわけです、それに準じて。それと、うまく連動させた表現にすれば、もうちょっとわかりやすいんじゃないのかなと思う。

その次の②の社会福祉協議会が実施している「見守り・声かけ活動」や「ふれあいなごやかサロン活動」、これの評価の理由が、財政面、広告等への何とかがあってあるんですけども、自主的に活動して、例えば、要するに、孤独死と違ってないのが非常にいいわけなんです。それが、なければなかったと書いたほうがいいと思う。そういうのが一番の成果なんです。ちゃんと見守りして、この中には、見守りして、定期的に声をかけて回りたいという人と、いや、外から見ている、例えば、新聞受けに新聞がたまっているかどうか、そういうので判断して、ちょっと来てもらおうと。そういう話の中で、例えば、そういう孤独死は一件もなかったとか、そういうのは大きな成果だと思うんです。例えば、見守りの人が行ったら救急車で運ばれたとか、そういうのもやっぱり大きな成果だと思うので、そういう何か連携した書き方か何かやるか、あとは、これ、定期的に会議やっているだよ、地区ごとにね。全体会もやっているんだけど。そういうのも、評価のこの中に入れて、実施状況を入れて、要するに、計画どおりできていれば、評価2か3になるわけ。そういうやり方でやったほうがいいんじゃないの。

何かこう、お金やってやったから、評価2というのもどうか、ちょっと何か。お金やって、財政支援したんだけど、相手がちゃんとやっている、要するに、こういう成果ができていますよって、今年は、こういう活動を何回もやったんですよという部分で、評価2とか3とかがあってなると思うので、そういう書き方のほうがいいかな。それは、誰が読んでもわかりやすいんじゃないかな。

ほかのところも幾つかあるんだけど。

○事務局（嶋田福祉推進課長） 事務局のほうから、よろしいでしょうか。

まず、大変、貴重なご指摘ありがとうございます。

まず、従前から委員のほうからは言われています、いわゆるわかりやすい評価ということで、数値化というところも常々ご指摘いただいているところなんです、特に地域福祉計画につきましては、ご承知のとおり6年間という非常に長いスパンでやっているわけなんですけれども、段階的に進めるなどというお話もございましたけれども、ある程度、目鼻がこう、例えば、従前の計画、今の第五次でいえばもう終わりましたけれども、例えば、総合福祉センターの建設だとかという、その具体的にこの年度でこういう成果を上げますというのが明確に出るものと、ただ、そうは言っても、理念的にこういうことを目指してやっていきますというところと、そのあたりのところでちょっと評価の、確かに手法が、もうちょっと細かく、きちっとわかりやすいようにというところ、できる部分もあるのかなというふうに、今のお話を聞いていて思いますので、従前からできるだけ数値

化をしてというようなご意見をいただいているところですが、今、社会福祉協議会の部分での見守り・声かけのところ、確かにこれ、あくまで市でこういうことをやりましたということしか載せていないんですが、ご指摘いただいたとおり、地域福祉活動計画に当然連動した形になっておりますので、そうしたところの評価、意見、社会福祉協議会の職員から酌み取ったところを、きちんとかこの評価にあらわすというようなところも、1つの手法かなと思いますので、貴重なご意見として参考にさせていただきます。

○E委員 せっかくお金やってやってもらっているんだから、フィードバックしてもらって、こういうふうにやりましたよという。

○事務局（嶋田福祉推進課長） はい、おっしゃるとおりです。

○E委員 社協も多分、年に4回ぐらい、四半期ごとに推進計画評価をやっている。

○事務局（嶋田福祉推進課長） そうですね、はい。来週、ちょっと私も会議に出てやるんですけども、そのとおりです。

○E委員 そういうのをフィードバックして、これにちょっと載せれば、簡潔に載せればわかりやすい。

○事務局（嶋田福祉推進課長） そうですね。ありがとうございます。

○E委員 あと、大変なのは、この相談活動なんだよね、なかなか難しいのは。

うちも、例の成年後見と権利擁護やっているんですけども、なかなか評価がしづらいんで。ただ、相談件数は物すごく多くて、載る人と載らない人が、なかなかこれ、いろいろご家庭の事情とかあって難しいんだけど、やっぱり相談件数が物すごく増えているというのは、非常に関心が高まっていると。

もう一つ、載せるにはどうしたらいい。だから、今、載せられると何が問題かということになる。例えば、法人後見制度とか、そういうのをもうちょっと取り入れれば、もっとの載る人がいるんじゃないか。やっぱりそういうのをちょっと課題として、やっぱり今後、そういうことも検討してやっていかないといけないんじゃないかという部分も、新たにあれば載せて。

なかなか難しいようです。

○事務局（嶋田福祉推進課長） そうですね、ありがとうございます。

○B部会長 いろいろとご意見いただきましたけれども、私も個人的に、先ほどG委員がおっしゃったように、何となくこう、今の自治会のところなんかは特に、コピーペーストしていらっしやる感じになってしまっているんで、せっくなので、特化した部分を、やっぱり重複する部分もあってもいいと思うんですけども、精査して、さっき嶋田課長がおっしゃったように、精査して載せるべきところに載せるべき課題を、状況載せていただいたほうが、よりわかりやすく、しっかり活動されているということが伝わってくるのかなというふうに思いますので、ぜひ工夫していただけたらありがたいなと思います。

ほかの皆様、いかがでしょうか。

よろしいですか。

はい、お願いします。

○E委員 次回の六次の計画では、できればそういう、できるものは年度ごとに到達目標つくって、全部はなかなか難しいと思う。

○事務局（嶋田福祉推進課長） そうですね。

○E委員 できるものは、そうやって評価したほうがいいんじゃないかなと。

○事務局（嶋田福祉推進課長） 事務局ですけれども、今、E委員からご指摘いただいたように、従前からも課題として、できるだけ、当然計画なので、目標があって、それに対する成果というところで、数値化できるものは、できるだけそういうような形で、目標年次も決めるですとか、そういったことも明確化もしていきたいなと思っております。

ただ、委員さんからもご指摘のように、なかなかそういかない部分の計画と、その辺のところは、できるだけ可視化をするという、わかりやすくするということでも、市民の皆様にご提供できるほうが良いと思いますので、そういったところにつなげてまいりたいと思います。

○B部会長 めり張りだと思うんですよね。見やすく計画的に5年間で分割できるものもあれば、当然できないものを、全体像としてお伝えせざるを得ないというものもあると思いますので、そのあたりが、めり張りとしてきちんと伝われば、そこが今、嶋田課長がおっしゃったように、本当に目に見える形で伝わっていけばいいのではないかなと思いますので、全てを数値化するとか、そういう硬い話ではなく、そのほうがわかりやすいものと、そうでないほうがわかりやすいものというところを精査していただければ、ありがたいと思います。

○事務局（嶋田福祉推進課長） はい、ご指摘ありがとうございます。

○B部会長 ほか、いかがでしょうか。

よろしいでしょうか。

では、もしこれ以上質問等、質疑等ございませんでしたら、ここで、第五次東大和市地域福祉計画、平成30年度の実施状況の調査報告について、現状におきましては、この内容で全体会に報告させていただくということで、ご賛同いただければと思いますが、いかがでしょうか。

よろしいですか。

○事務局（嶋田福祉推進課長） いま1つなんですけど、今、貴重なご意見いただきましたので、その書きぶりのところですか、改善できるところは、改めて委員の皆様、ちょっと、部会場で報告できるかどうかあれなんですけど、書面でこういう形で訂正させていただきますなどの形で処理させていただいた上で、全体会には、できるところは変えて報告させていただくということで、ご了解いただければと思います。

○B部会長 一応、全体会できつと報告するのは私ですよ。

○事務局（嶋田福祉推進課長）　そうですね、はい。

○B部会長　そうですね。その中で、皆さんからいただいたご意見も少し付しながら、ご説明させていただければと思います。

○事務局（嶋田福祉推進課長）　そうですね。当然部会長に一任みたいな形で、部会長とも調整させていただきながら、直せるところは直したいなというふうに思っていますので、よろしくをお願いします。

○B部会長　ということで、少し手を加えさせていただくということをご了解いただきつつ、全体でご承認いただければありがたいですが、いかがでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

○B部会長　ありがとうございます。

では、異議なしということで、付するべきところは付して、調整すべきところは調整して、ご報告いたしたいと思います。よろしく願いいたします。

では、その他、何か事務局からございますか。

○事務局（武村）　それでは、事務局からの連絡でございます。

2月10日月曜日に、2回目、今年度の最終になりますが、全体会、こちら、地域福祉委員会の全体会の開催を予定しております。時間は、午後7時からです。場所は、この会議棟の第6、第7会議室を予定してしております。部会員の皆様には、ご出席をお願いいたします。

事務局からは以上でございます。

○B部会長　では、2月10日、全体会ということで、ちょっと日にちが、2週間ほどしかございませんけれども、お忙しい中ですが、ご参加いただければと思います。

ここまで、ほかにご意見、ご質問なければ、閉会とさせていただきますと思いますが。

○G委員　すみません。そのアンケートの中で、このアンケートをもとに、次回の福祉計画案につながっていくと思うんですが、これは、案自体は所管の課とぎょうせいさんでつくって、次の部会か何かに出てくるというふうに考えれば。

○事務局（嶋田福祉推進課長）　そうです。来年度になってしまうと思うんですけども、当然このアンケート結果を踏まえまして、いろんな、当然国からの方針とか、そういったこともございますので、そんな形での策定案みたいなものを、ぎょうせいさんとも見ながら、そういった形の、あくまでもアンケート結果は、そのもとになるというふうなご理解いただければと思います。

ですから、今回、部会長からもございました、初見でこういった細かい資料を提出させていただきましたので、例えばご自宅に持ち帰って、ちょっとこれ、どういうことなのかみたいなご質問等があれば、遠慮なく事務局のほうに入れていただいて、そういったことも、皆さんにはご意見としてフィードバックはさせていただきたいと思いますので、そんな形で追い込むという形にさせていただければなというふうに思いますし、当然、その計画の

案、策定をさせていただいた上で、この部会でもんでいただいて、ご相談をみたいなどの議論は、今後、来年度以降させていただくような形になるかと思います。

○G委員 ごく大ざっぱにいうと、来年度の7月ぐらい。

○事務局（嶋田福祉推進課長） 第六次計画は、はい。

○事務局（武村） そちらのスケジュールが、今年度当初に出させていただいた、若干、当然ながら修正のほうありまして、来年度早いうちに、これは全体、部会だけではなくて全体としまして、細かいスケジュールが入った、特に令和2年度の特化したスケジュール表のほうを、また来年度の早いうちの段階で、皆様方にもご提示、当然それは、地域福祉部会のみならず、障害者部会と健康推進部会、また介護保険に関する計画ともリンクしておりますので、そちら、5計画全て含めましたスケジュールのほうを、来年度の早い段階のうちで、皆様方にご提示できればと考えております。

以上でございます。

○E委員 ぎょうせいさんに聞かないと。

今、国で、福祉基本法だっけ、何か審議していますよね。

○ぎょうせい（目時） はい。

○E委員 今度、結構あれですよ、共生社会が強くて……

○ぎょうせい（目時） はい。我が事・丸ごとのほうに動いていくところがあると思います。

○E委員 あの部分がかなり強く出てくるから、ただ、各市町村に全部、それだけの予算配分するかどうかというのが心配です。丸ごとなくなっちゃっても怖いよな。

またわかったら、早目に説明いただくとありがたいです。

○B部会長 そうですね、情報提供していただきながら。

私、毎年、2年に1回、富山県って地域共生の先行した行政区域なんですけれども、富山県の勉強会がありまして、今年は、たまたまですが、E委員と一緒に行かせていただいたんですけれども、やっぱりそこは、本当に縦割りではなく、本当に常に横に横にという目線で物事が動いている地域なので、そういうところ、本当に参考にしながら。国もそういうようなものを参考にして、今、いろいろと見直しをなさっていますので。前回、前々回は、厚労大臣がやっぱり参加されていますし、それだけ国の指標になる地域として、今活躍されていますので、東大和市にとっても参考になると思いますので、また、いろいろ情報を共有しながら進めていければと思います。

○E委員 ちょっと違うよね、その考え方ね。

○B部会長 そうですね。根本的な考え方というかが、やっぱりちょっと先駆的ですよ。では、今日は遅くまでありがとうございました。

今後ともよろしく願いいたします。

ありがとうございました。